

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島中学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は、A問題は全国とほぼ同程度であり、一定の定着が見られます。
- ・国語の「知識」をみるA問題の方が、「活用」の力をみるB問題よりも正答率が高いです。
- ・漢字の書き、慣用句、歴史的仮名遣いの問題の正答率が低く、課題が見られます。
- ・「話すこと・聞くこと」に関する正答率は高いですが、資料や複数の文章から情報を読み取る問題の正答率が低いです。
- ・数学では全国の平均正答率と比較し、全体的に同程度か若干下回る結果で、学習の定着には課題があるといえます。
- ・「相対度数の変化について正しい記述を選ぶ」という問題では、平均正答率を大幅に上回る平均正答率となりました。
- ・「等式 $S = 1/2 ah$ を a について解く」という問題では、全国の平均正答率を大きく下回りました。
- ・国語、数学共に全国との差が縮まったり、若干上回ったりし、改善が見られます。
- ・理科では、全国と比較した場合、観点別に見ると「自然事象についての知識・理解」、問題形式で見ると「短答式」の正答率が低い傾向が見られます。
- ・理科の問題の文章を読み取る力や基礎基本の定着、計算やグラフから読み取る力に課題があることがわかります。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

・良いと認められる項目

「自分にはよいところがあると思いますか」や「将来の夢や目標を持っていますか」などの自分に関すること、また「学校の規則を守っていますか」をはじめとする学校生活に関わる項目で、高い数値を示しています。

数学の学習について重要性を理解し、好意的・意欲的に取り組んでいる生徒の割合が、全国より高いです。

理科に対する意欲・関心、また必要性について高い数値を示しています。

・課題となる項目

学校の授業以外に、普段どれくらいの時間、勉強をしますかという問いに、「全くしない」と回答した割合が高いです。

自然の中で遊んだことや自然観察をした経験が少ないと答える生徒が多い傾向があります。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・漢字、ことわざ、慣用句、四字熟語などの学習に継続して取り組み、語彙力の向上を目指します。
- ・新聞を活用し、図表など資料を読み取る力を育成していきます。
- ・「読むこと」の学習では目的をもって文章を読み、読み取ったことをもとに自分の考えを表現していく活動を取り入れていきます。
- ・「読書」に親しむ生徒を育成するため、図書室と連携した授業づくりに努めます。
- ・数学の授業では、日常生活に関連付けるなど、関心意欲を引き出す教材を工夫します。
- ・全国の平均を下回った問題については、類題の演習を通して求められていることに対する考え方を鍛えます。
- ・理科の学習では、実験や観察する機会を増やします。
- ・実験や観察を通して、考える力を伸ばしたり、考えたことを発表したりする場面を多く取り入れた授業を展開していきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・規則正しい生活習慣と学習習慣の形成にご支援、ご協力をお願い致します。
- ・自主学習で、漢字の読み書きなどの反復練習に粘り強く取り組んでください。
- ・親子で本を読む、一緒に図書館に行くなど、家族ぐるみで本に親しむ機会をつくっていきましょう。